

かわり

vol. 56
May 2017



撮影者/河崎 亮

かわり “やさしさ” “真心” “思いやり” で満たされた “心のかおり” のするサービス “をめぐって”

vol.56 May 2017

社会福祉法人 松美会 広報誌

発行日:2017年5月15日発行

理念

私たちは地域の皆様の幸福(しあわせ)に貢献できる社会福祉法人を目指します。

品質方針

顧客満足から顧客感動へ「やさしさ」「真心」「思いやり」で満ち溢れた心のかおりのするサービスを目指します。

今回の内容

いろいろな頑張りを表彰しました!.....	02
特養ってなかなか入所できない施設?.....	03
介護福祉情報 認知症カフェ.....	04
各拠点からのお知らせ	
さこ拠点(彦島町).....	04
たのくび拠点(彦島田の首町)・しおはま拠点(彦島塩浜町).....	05
ゆめタウン拠点(長府ゆめタウン)・しおかぜ拠点(彦島追町).....	06
松美会の人財 私たちが働いています!.....	07
自宅でできる介護食のススメ(その3).....	08

自宅でできる
介護食のススメ
(その3)

栄養管理・食事サービス部
管理栄養士 中井由佳梨



今回は、揚げ物でもやわらかく、揚げ物でもなるべく簡単な方法で作成できるレシピをご紹介します。やわらかい食事作りのポイントである「食材でつなぎを工夫」、「調理の工夫」、「調理器具の活用」を取り入れています。

～ソフトトンカツ～ (4人分)

- 豚ももひき肉 150g ●玉葱 150g ●サラダ油 大さじ1 ●塩とコショウ 少々 ●薄口醤油 大さじ1/2 ●パン粉 1/4カップ ●サラダ油(揚げ油) 大さじ3 ●お好みのソース (●キャベツ1/8玉 ●トマト1個)
- A(卵の素) 卵黄 1個、サラダ油 大さじ1と1/2 ■B(バター液) 卵 1/2個、小麦粉 大さじ2、水 大さじ1

【作り方】

- ①玉葱を細かみじん切りにする。油をまぶして耐熱皿に入れ、ぬらしたクッキングペーパーをかぶせてラップで密閉。500Wの電子レンジで約6分間加熱し、冷ましておく。
- ②■Aを泡立て器で白っぽくなるまで攪拌し(卵の素)を作る。※油は少しずつ入れる。
- ③ボウルに豚肉、①、②、塩とコショウ、薄口醤油を入れ、粘りが出るまでよくこねる。
- ④③を4個に分け、トンカツの形に整えて、蒸し器で約15分間蒸す。
- ⑤パン粉はフードプロセッサーで細かく砕いておく。
- ⑥④の粗熱と水分をとり、■Bを混ぜ合わせた(バター液)、⑤の順に衣をつけ、熱したフライパンに油を入れて両面きつね色になるまで揚げ焼きにする。
- ⑦⑥を食べやすい大きさにカットして盛り、お好みのソース等をかける。



ワンポイントアドバイス

キャベツやトマトを添えると彩り豊かに仕上がります。キャベツは繊維と直角に切って塩茹でし、トマトは湯むきして皮を取り、種を取り除くと食べやすくなります。



社会福祉法人 松美会

URL: <http://www.shoubikai.or.jp>
E-mail: fukushi@shoubikai.or.jp

<p>◎アイユウの苑 迫(さこ) 〒750-0092 下関市彦島迫町三丁目17番2号</p>	<p>■特別養護老人ホーム アイユウの苑(ショートステイ) ■アイユウの苑 デイサービスセンター ■アイユウの苑 サテライトデイサービスセンター六連島 ■アイユウの苑 ホームヘルプサービス ■アイユウの苑 訪問入浴サービス ■アイユウの苑 訪問看護サービス ■アイユウの苑 ケアマネジメントセンター</p>	<p>Tel. 083-266-8287 Tel. 083-266-6364 Tel. 083-266-6364 Tel. 083-261-1372 Tel. 083-266-6364 Tel. 083-261-4337 Tel. 083-266-6501</p>
<p>◎アイユウの苑 田の首(たのくび) 〒750-0085 下関市彦島田の首町一丁目1番32号</p>	<p>■アイユウの苑 グループホーム ■アイユウの苑 デイサービスセンターしおはま</p>	<p>Tel. 083-266-5361 Tel. 083-266-5362</p>
<p>◎アイユウの苑 塩浜(しおはま) 〒750-0086 下関市彦島塩浜町三丁目14番47号</p>	<p>■地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑しおはま ■小規模多機能型居宅介護 アイユウの苑しおはま □住宅型有料老人ホーム アイユウの苑しおはま</p>	<p>Tel. 083-267-8800 Tel. 083-267-2525 Tel. 083-267-2525</p>
<p>◎アイユウの苑 ゆめタウン 〒752-0926 下関市長府ゆめタウン2番24号</p>	<p>■地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑ゆめタウン ■アイユウの苑ゆめタウン ショートステイ</p>	<p>Tel. 083-249-2200 Tel. 083-249-2200</p>
<p>◎しおかぜの里 〒750-0092 下関市彦島迫町六丁目7番22号</p>	<p>□しおかぜの里保育園</p>	<p>Tel. 083-267-1917</p>



社会福祉法人 松美会 アイユウの苑は「社会福祉法人」「特別養護老人ホーム」「在宅介護サービスの複合供給体」として、日本で初めて1999年10月に品質マネジメントシステムISO9001の認証(審査登録)取得を実現しました。その後も、システムの維持・継続的改善をしながら認証取得事業所の拡大を推進しています。

特養ってなかなか入所できない施設？

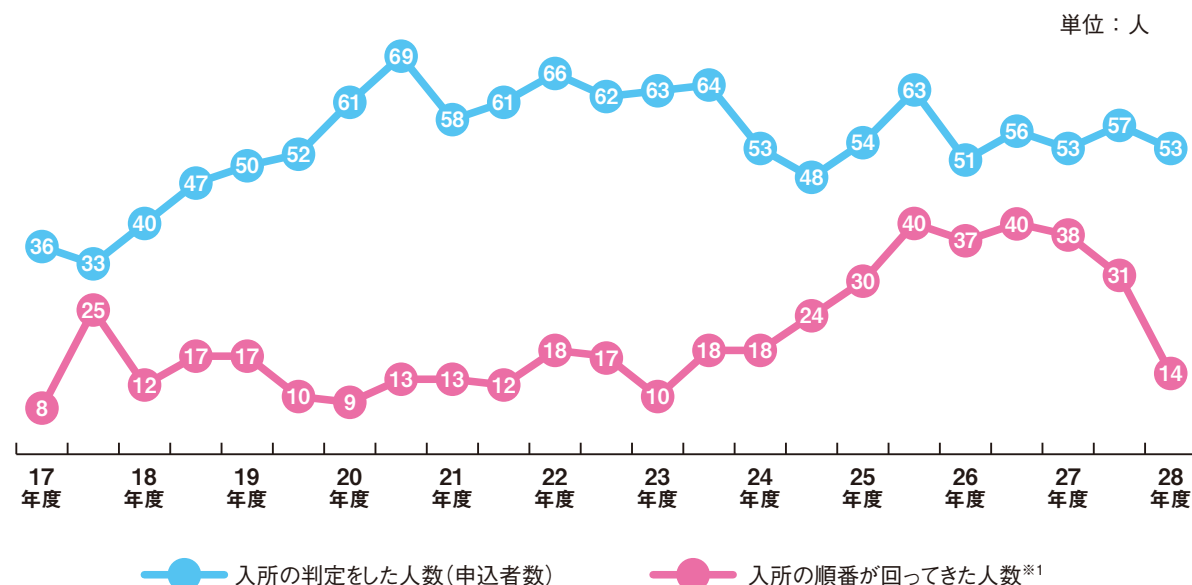
～「何年も入所を待たなければならない」は本当なのか～

特別養護老人ホーム(以下、特養)は“なかなか入所できない”施設と思われることが多いです。そのため、何年前までは「今は必要ないが先々のことを考えて申込みしておきたい。」などの声も聞かれました。ですが、実はそれほど入所しづらい施設ではないのです。今回は特養の入所の現状についてお知らせします。まず、前提として、特養の入所は、“介護がより必要な方から”というのが基本にあり、その入所順位は、“入所検討委員会”を経て決まります。よって、例えば何年も前から入所を待っていても、今、介護が必要な状態でなければなかなか入所できず、逆に、介護がすぐ必要な方は入所期間をそれほど待たずに入所できるのです。(入所の判定方法については別にお問い合わせ下さい。)

それでは、実際にどのくらいの方が特養入所しているのでしょうか？ 下図は、特別養護老人ホーム アイユウの苑(定員100名)の入所の判定をした人数(申込者数)と入所の順番が回ってきた人数の状況です。



何人くらい申し込んでいて、何人くらい入所できるのか？



*1 「入所の順番が回ってきた人数」は、入所を事情によりキャンセルされたり、後回しにされた方も含む人数であり、実際に入所された人数ではありません。

年に2度ある入所検討委員会では、毎回50名～60名の方の入所判定を行い、概ね半年で10名～20名程度の方に入所していただきます。なかには入所の順番が来たけれど、他施設の入所の順番が先に回ってきて既に他施設に入所されている方や、病院に入院されていてすぐに退院できない方など申込された方の諸事情で入所を取り消されたり、後回しにされるケースもあります。よって、入所枠が10名～20名程度であっても、実際に入所の順番が回ってきた人数はもっと多く、申し込みさえしておけば入所の順番が回ってくる可能性は大いにあります。(※1)

在宅での介護が難しくなってきて施設入所を検討する際、最近あちらこちらで見かける「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者向け住宅」など、「特養」以外の選択肢も増えました。しかし、一般的に“老人ホーム”という名称でひとくりにされやす

い「有料老人ホーム」や「サービス付き高齢者向け住宅」と「特養」では、その役割や機能が全く違います。

特養は、希望すればすぐに入所できる施設ではないかも知れませんが、要介護5や要介護4の方であれば入所待ち期間も半年以内と入所しやすくなってきているのは事実です。要介護が5や4など、より介護が必要な状態で施設入所をお考えの皆さん(既に有料老人ホームなどに入居されている方も含めて)は、十分な介護や医療が比較的安い費用で利用できる特養への入所をお勧めいたします。なかなか入所できないからと諦めず、是非一度お問い合わせ下さい。

(※1) 特別養護老人ホームの定員規模によって入所のしやすさは異なります。

特別養護老人ホーム アイユウの苑
地域密着型介護老人福祉施設 アイユウの苑おはま
主任生活相談員 高下 康司

いろいろな頑張りを表彰しました!!

～アイユウの苑の一年を振り返って～

私たちは、アイユウの苑が、ここで働く職員にとって、“常に働きがいのある職場”であることを目指しています。その一環として職員一人ひとりの様々な頑張りを褒め称える機会づくりを進めてきました。

勤続表彰

10年勤続、20年勤続、30年勤続と節目を表彰します。

リスクマネジメント表彰

ヒヤリはつなどの報告書の提出件数やその内容で表彰します。

接遇表彰

全職員の投票によって選ばれた、接遇に優れた職員を表彰します。

部門内表彰

各部門が個別にたてた年間表彰目標の上位者を表彰します。

今回その中でも、表彰内容がバラエティーに富んでおり、身近な頑張りを評価する、「部門内表彰」の中から4部門ご紹介いたします。

アイユウの苑 グループホーム

「グループホーム職員の鏡で 賞」

受賞者 大野直樹

ご利用者様にとっての良いサービス提供は、職員にとっても働きやすい職場環境から始まります。改善報告書を用いて職場環境の改善をより多く推進することはもちろん、損得にとらわれずに献身的に職場を底支えしてくれている職員を表彰する賞です。



アイユウの苑 ケアマネジメントセンター

「自分は成長したで 賞」

受賞者 丸山美幸

ケアマネジャーの仕事は経験を重ねるだけでは成長できとは言えません。介護保険制度の解釈や行政からの指導などを理解し、基礎能力・専門能力・実践能力を向上させなければなりません。自己研鑽するとともに、ケアマネ仲間とともに成長することを推進した職員を表彰する賞です。



特別養護老人ホーム アイユウの苑

「お客様のこころの声をくみ取ったで 賞」

受賞者 高野さとみ
(クオリティー賞)

お客様に接した際のお客様の行動や話し方にこそ「思うことをはっきりと言いつづら」お客様の本音が入っているのではないかと考えています。相手の立場に立って仮定したり、気付いたりしたことを職員間で共有し、サービスの質の改善に繋げようと推進した職員を表彰する賞です。



しおかぜの里保育園

「ユニークな保育で子どもの心をつかんだで 賞」

受賞者 たんぽぽ組
(佐竹絵莉、大塚麻友、山崎通子)

「こうすればもっと良いものになるのでは」、「こうすれば子ども達も喜ぶのでは」、「こうすれば子ども達のより良い成長に繋がるのでは」など、子供たちが今まで以上に楽しめる保育内容を考えた職員を表彰する賞です。



(その他の部門の表彰内容)

- *アイユウの苑デイサービスセンター 「輝いてるで賞」 弘瀬貞子
- *アイユウの苑ホームヘルプサービス 「ヒヤリはつと報告書等をたくさん提出したで賞」 植田優美子
- *アイユウの苑訪問看護サービス 「いっぱい勉強したで賞」 前田圭子
- *アイユウの苑デイサービスセンターしおかぜ 「個人目標達成したで賞」 坂井清美
- *地域密着型介護老人福祉施設アイユウの苑ゆめタウン・ゆめタウンショートステイ 「たくさんの意見を出してくれたで賞」 神尾由香里/岩政和実
- *地域密着型介護老人福祉施設アイユウの苑しおかぜ 「緑の下の力持ちで賞」 藤本八重子
- *小規模多機能型居宅介護アイユウの苑しおかぜ 「見習いたいで賞」 池田耕太
- *下関市彦島地域包括支援センター 「たくさんの相談に乗ったで賞」 池田明子
- *栄養管理食事サービス部 「ご利用者様への食べる喜びを支援したで賞」 村田千佳

すべての職員は誰もが精一杯頑張っています。普段の業務の中から、様々な頑張りを発見し、褒め称えることが職員一人ひとりのやる気に繋がり、ひいては職場の雰囲気を良くすることに繋がり、結果として良いサービス提供が可能となり、ご利用者様の満足に繋がると確信しています。「アイユウの苑は働きがいのある職場」多くの職員がそう思ってもらえると幸せです。

法人事務局
事務局長 辻中 浩司

認知症の進行を遅らせる

『公文式教室』で有名な株式会社公文教育研究会には、認知症の改善を目的とした“くもん学習療法”というのがあります。この開発には「脳トレ」で有名な東北大学の川島隆太教授も関わっており、認知症を患った方の脳の機能維持や改善を目的とした非薬物療法として、また取り組みの先駆性など厚生労働省や農林水産省、経済産業省からも注目されています。

当苑では、平成19年から認知症ケアの一環として“くもん学習療法”を取り入れています。また、全職員が必要な研修を修了しており、高水準の学習療法が実施できる体制があります。

日常生活を支援する中で、ご利用者様に役割や活躍できる場面を創出し、自信や意欲を維持する(場合によっては取り戻す)といった、グループホームの認知症ケアにおけるの当たり前のケアは当たり前前に実施し、それらに上乗せする具体的な方法の一つが“くもん学習療法”

各拠点からのお知らせ
たのくび
拠点
(彦島田の首町)



という位置づけです。「認知症の進行を少しでも遅らせたい。」というご家族の思いにも添ったものでもあります。

平成29年3月現在で、7名の方が参加していらっしゃいますが、得られるものは多く、ケアの幅が広がっています。これからもアイユウの苑グループホームでは、認知症の進行遅延に本気で取り組み続けます。

アイユウの苑 グループホーム
管理者 江藤文彦



各拠点からのお知らせ
しおはま
拠点
(彦島塩浜町)



余暇の過ごし方の充実を目指して

地域密着型介護老人福祉施設しおはまでは、昨年度よりご利用者様の余暇の過ごし方の充実への取り組みに力を入れています。私たちは、日常生活の支援だけでなく、ご利用者様が毎日楽しみを持って生活していただくことが大切だと思っています。それぞれのご利用者様には担当の職員がおり、その担当職員が中心となってご利用者様に対して個別のレクリエーション(以下、レク)を考え実施しています。また、ユニット内でのレクや全ユニット合同のお誕生日会も毎月開催しています。以前は、業務に追われ、余暇の活動の充実が図れていないことが課題でしたが、できる時にではなく、あらかじめ計画を立てて実施することでレクの

回数も増え、だんだんご利用者様の余暇の時間が豊かなものになってきているのではないかと感じています。ご利用者様からの喜びの声も聞けますし、職員のモチベーションの向上にも繋がっています。

レク実施後はユニットごとに大きなレクカレンダーを作成し、実施写真を掲示しています。実施状況を可視化したことで、ご家族をはじめとしたご面会の方からの反響もあり、ご利用者様の知らない一面や楽しそうな表情を見ることもでき好評です。

これからもご利用者様の生活が楽しく充実したものになるように取り組んでいきたいと思ひます。

地域密着型介護老人福祉施設しおはま
生活相談員 山本菜生子



各拠点からのお知らせ
さこ
拠点
(彦島迫町)

地域の皆様の幸福のために

ホームヘルプサービスは、ご利用者様のご自宅に訪問して、入浴、排泄、食事等の介護や調理、洗濯、掃除等の家事を行うサービスを提供しています。ホームヘルプサービスは、在宅介護サービスの中でも歴史の長いサービスです。1955年に長野県の一人の女性が働きかけたことから始まった事業らしく62年の年月を経て今日のような事業に発展しています。当時は人材の確保が課題になっていた様ですが、現在もそれは同じであり介護業界全体が人材不足のなか、当事業所もその中の1つです。

当事業所は開設から22年目を迎えようとしています。開設当初からヘルパーとして勤務している職員を中心に24名のヘルパーでサービス提供しています。私たちは、ご利用者様が「アイユウの苑ホームヘルプサービスに頼んだら、安心して生活ができる」と感じていただけるような事業所でありたいこと。常に連携を図り多職種協働でご利用者様にとって最善のケアを提供できるようにすることを目指しています。今も昔も変わらない私たちヘルパーの思いをこれからも大切にして、ご利用者様から選び続けて頂けるよう支援させていただきたいと思ひます。

平成29年4月から下関市において「介護予防・日常生活支援総合事業」が始まり、要支援1・2のご利用者様がご利用されていた訪問介護が全国一律のサービスから下関市の基準によるサービスに変わりました。ヘルパーが行うサービス内容は大きく変わりますが、ご利用料や利用回数などご利用しやすくなっています。介護保険でできること、できないことがありますが、日常生活でお困りのことがございましたら、お気軽にご相談いただければ幸いです。

アイユウの苑 ホームヘルプサービス
管理者 永田英一



介護福祉情報

オレンジ喫茶ひこしま のご紹介

オレンジ喫茶(認知症カフェ)とは。

平成27年度から始まった、厚生労働省の認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)では、『認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。』とされています。

今までは、認知症の方が社会に参加する機会や家族が情報交換できる場所は、限られてきました。また、一般の人が認知症について知る機会も少ないのが現状です。

そこで、認知症カフェには、認知症の人と家族を支える新しい心のよりどころ、そして、地域の人が認知症のことをより理解する場所としての役割が期待されています。

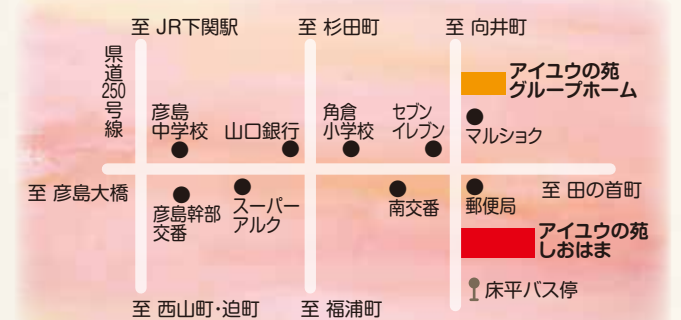
平成28年11月にオープンした認知症カフェ「オレンジ喫茶ひこしま」は、「認知症の人やその家族・知人、介護・医療などの専門職、そして、認知症について気になる地域の皆さまなどが気楽に集まり、お茶を飲みながら和やかな雰囲気のもと交流を楽しむ場所」として活動しています。皆さんお気軽にお越し下さい。



- 開催日時 毎月第1水曜日 10:00~12:00
(出入りは自由です。お好きな時間にどうぞ)
- 参加費 おひとり100円(お茶代)
- 開催場所 アイユウの苑しおはま
彦島塩浜町3-14-47 ☎083-267-8800

- 主催 下関市認知症を支える会「キャッチボールの会」
- 共催 下関市彦島地域包括支援センター
社会福祉法人 松美会(アイユウの苑)

ご参加のお申し込み予約は不要です。
専門職の相談も受けられます。



- タクシー JR下関駅よりタクシーで15分
- サンデンバス 彦島営業所行き(山中経由または、中部経由) 床平バス停下車徒歩3分



特別養護老人ホーム
受診担当 沖原 史人
平成21年度入職 介護職員

私は、受診担当職員としてアイユウの苑で働くようになり、もうすぐ8年目になります。当初は、さこ拠点のご利用者様のみを担当していましたが、今では、しおはま拠点やたのくび拠点のご利用者様の受診送迎も担当させていただいています。

働き出した頃は、医療的専門知識の不足やご利用者様のお名前やお顔、特徴などをなかなか把握できなかったり、看護職員にも上手く申し送りができない自分に日々悩み、不安な気持ちでいっぱいだったことを覚えています。また、「病院へ行く=怖い」と感じるご利用者様に対して、どのようにお声掛けしたら良いのか迷い自信をなくしていました。しかし、ご利用者様の「この前はありがとうね」と受診の付き添いに対する感謝のお言葉一つひとつが、私の「頑張ろう」という気持ちに繋がって今日の自分があるように思います。

私の仕事は、報告、連絡、相談を早めに行い、他職種と連携を図ることが必要とされます。もちろん、送迎時の交通事故や車内での怪我が無いように、安全運転に細心の注意を払わなければ



なりません。まだまだ未熟な私ですが、今よりも頼りにされる受診担当として影ながら皆さんの健康管理のサポートができればと思います。

松美会の人財 私たちが働いています!

今回のテーマは...

自分が成長したきっかけや、成長したと実感する時



しおかぜの里保育園
保育士 満部 彩香
平成26年度入職 保育士

保育士として働き始めた当初は、学校で勉強したこととは違い実践の中で学ぶことが多く、勉強の毎日でした。保育士という職業は、子ども達や保護者の前に立つことが多いのですが、私はもともとあがり症で、子ども達の前で絵本読みをするだけで緊張して顔がすぐ赤くなります。特に集会などでの司会やピアノ伴奏では、手が震えるほどでした。しかし、発表会で子どもたちがたくさん人の前で楽しそうに歌ったり踊ったりしている姿を目にして、自分は失敗することばかりを恐れて、楽しむことができていないことに気づかされました。それからは、その時の子どもたちの姿を思い出しながら、失敗を恐れずに意識しています。そのおかげもあって、先日行われた「母の会」では、保護者の方々の前で落ち着いて講演を行うことができ、自分の成長を感じることができました。

これからは、私を成長させてくれた子どもたちに、「できなかったことが達成できる」きっかけを与えられるような保育士になれるよう、日々精進していききたいと思います。



特別養護老人ホーム
介護職員 井村 理恵
平成17年度入職 介護福祉士

私が社会人1年目をスタートさせたのは、アイユウの苑です。当時は、『まずは、学校で学んできた介護技術を確実にやることからはじめよう!』という思いでした。しかし、思うようにはいかず試行錯誤しているうちに自信を無くし、『やっぱりこの仕事は向いていないのではないかな。』と思うようになりました。そんな時、上司や先輩に「初めから上手くやろうとせず、ゆっくりで良いから今までどおり丁寧にすることが大切だよ。」と優しく声を掛けていただきました。しっかり自分を見てくれる人がいると気づいた時、改めて今の自分にできることを一つずつやってみようと考え直しました。そして数年が経ち、ふとした時にご利用者様から「あなたはとても丁寧だから気持ちが良い。」とお言葉をいただいた時に、『私が目指していたのはこういう介護だったのかな。』と思うことができました。

今、新人職員を先輩職員として迎える立場になりました。

私が指導にあたる時には、上司や先輩が気付かせてくれたあの言葉を新人職員へ伝えていきたいと思っています。



デイサービスセンターしおはま
介護職員 植田 愛
平成28年度入職 社会福祉主事

昨年の春、学校を卒業し介護職に就くことになりました。働き始めの頃は、仕事の流れやご利用者様のお名前、介助の方法など、覚えることが多く、日々が流れるように過ぎていったように思います。そのような中で、ご利用者様とのコミュニケーションをとりたいたいと思っていても、同じような話しかできず自分なりの関わり方を見つけたいと考えていました。

ある時、他の職員の方と話をした時に「姿勢が悪いと自信がないように見える。姿勢を正して胸を張ると、自信があるように見えてご利用者様にもこの人なら、と話しかけられると思うよ。」とアドバイスをもらいました。それから姿勢に気を付けるようになり自信が少しずつついてくると、ご利用者様と積極的に関わろうという気持ちにつながり、以前より会話も弾むようになってきました。

送迎時にはご家族様とお話しをすることもあり、ご利用者様だけでなくご家族様にも安心していただけるようにお話しすることも大切だと考えています。

ご利用者様、ご家族様、他の職員に「この人ならなんとかしてくれそう」と思ってもらえるような、頼りになる職員を目指していきたいです。



各拠点からのお知らせ

ゆめタウン

拠点 (長府ゆめタウン)

行事参加を通じて 四季の季節感を感じていただく!

ゆめタウン拠点では、毎年、行事・広報委員会のメンバーを中心に年間の行事スケジュールを年度初めに計画しております。その中には毎年の恒例行事や初めて行なう行事など様々です。年間の行事スケジュール通りに計画的に開催、実施を行っていますが、天候や感染症の流行時期など状況によって変更や修正を重ねております。

その中でも行事を開催する意味としては、ご利用者様の参加された時の表情を見たり、感想を聞くことで次はこんな行事もしてみよう、また来年も絶対やろうなど職員の意欲にも繋がっています。

また、介護施設はどうしても閉鎖的な雰囲気になりやすい部分があると思いますが、日本ならではの四季の移り変わりを少しでも感じていただき、気分転換することも施設での生活を通じてとても大切だと感じています。ゆめタウンの立地は大型商業施設が隣接していることもあって、ご利用者様からの買い物のニーズも多

く、よく出掛けています。またご面会に来られるご家族様にとっても一緒に買い物に出掛ける機会をもてることへの利便性も感じていらっしゃると思います。

年間の行事を計画するためには、一番に参加されるご利用者様の目線に立って考えることが大事ですし、その上で大掛かりでなくとも、継続して続けられる季節感や満足感に繋げられる行事を今後もゆめタウンでは考えていきたいと思っています。

アイユウの苑 ゆめタウンショートステイ
主任ケアワーカー 岩地 三郎



各拠点からのお知らせ

しおかぜ

拠点 (彦島迫町)

地域の方々に支えられ

しおかぜの里保育園では、地域の方や、祖父母を交えて毎年11月には焼き芋パーティー、12月には餅つき大会をおこなっています。

焼き芋パーティーでは6月に園児が苗を植え、収穫の前まで毎日水やりをし、成長した芋を収穫したものを使います。自分たちが育てて大きくなったお芋を収穫、祖父母や地域の方と一緒に焼いて食べる味は格別な物になり、園児たちはホクホクのお芋を美味しくいただきました。

餅つき大会では、年長ゆり組さんが、もち米を研ぐお手伝いをします。その研いだお米を給食室で蒸してもらい、ランチルームでついていきます。地域の方や、祖父母と一緒に餅をつき、丸め、醤油やきな粉など、自分の好きな味付けをしたお餅もまた、格別な味になりました。

しおかぜの里保育園は、保護者を始め地域の方々に支えられ、楽しい行事が行われています。これからも地域の方々のご協力も得ながら、子ども達の成長が図れたらと思います。

しおかぜの里保育園
園長 泉 喜代美

